

事業者排出量削減計画書（新規・変更）

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市南区上鳥羽鉾立町11番地1					
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	任天堂株式会社 代表取締役社長 岩田 聡					
事業者の主たる業種	家庭用レジャー機器の製造販売					
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））					
計画期間	平成20年4月～平成23年3月					
基本方針	主要エネルギーである電力使用量の削減、廃棄物の発生抑制と再資源化の推進、CO2排出量削減に向けた省エネ活動の推進。					
推進体制	上記基本方針に基づき、総務部において省エネ推進に係る計画の策定・進捗状況の把握に努める。					
	環境マネジメントシステム名称					
	適用範囲					
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	取得年月日					
	年度	設備、対象、工程等	計画内容			
	平成20年度	本社	エネルギー管理標準の見直し、整備による更なる省エネ活動の推進			
	平成20～22年度	全事業所	人感センサー、昼光利用、間引き点灯、スイッチ回路の切り分け等による照明設備の節電の励行			
温室効果ガスの排出量等	平成20～22年度	全事業所	改修時における空調・照明設備の省エネタイプへの更新			
	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）		
	A 事業所等排出区分	3,973 t	3,906 t	-1.7 %		
	B 輸送車両排出区分	t	t	%		
	C その他排出区分	t	t	%		
	排出合計	*1 3,973 t	*2 3,906 t	-1.7 %		
目標設定の考え方	事業所等の増減の予定はないことから、現在の使用機器の省エネルギー化を進めることで、CO2排出量を削減する。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	
		二酸化炭素換算			%	
		二酸化炭素換算			%	
		二酸化炭素換算			%	
原単位の指標及び計画数値設定の考え方	【別紙】原単位当たりの温室効果ガス排出量等による。					
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				
		取組量等	（二酸化炭素換算）			
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）		t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）		t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（売電量）	kwh	（削減量）		t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）		t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）		t
削減量等合計			*3	t		
差引排出量 （排出合計－削減等合計）		基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）		
	*1	3,973 t	*2-(*3)	3,906 t	-1.7 %	
地球温暖化対策に資する社会貢献活動						
特記事項	CO2排出量の大半を占める本社ビルは、2000年11月に省エネをコンセプト（水蓄熱システム・新冷媒自然循環システム・新冷媒空調システム・躯体蓄熱システム・自動調光システム等々の導入）として建設され、排出量削減に貢献しております。					

注1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。

注2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

注3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

注4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。

注5 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。

【別紙】原単位当たりの温室効果ガス排出量等

原単位当たりの 温室効果ガス排 出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）		目標年度（計画）		増減率（計画）
	本社	二酸化炭素換算 （延床面積）	78.99	t-CO2/千㎡	78.23	t-CO2/千㎡	-1.0 %
	京都リサーチセンター	二酸化炭素換算 （延床面積）	45.47	t-CO2/千㎡	44.02	t-CO2/千㎡	-3.2 %
	宇治工場	二酸化炭素換算 （延床面積）	30.04	t-CO2/千㎡	29.20	t-CO2/千㎡	-2.8 %
	宇治小倉工場	二酸化炭素換算 （延床面積）	30.22	t-CO2/千㎡	29.20	t-CO2/千㎡	-3.4 %
	宇治大久保工場	二酸化炭素換算 （延床面積）	9.54	t-CO2/千㎡	9.22	t-CO2/千㎡	-3.4 %
原単位の指標及び計画数値設定の考 え方		各事業所ともに、延床面積を原単位に、本社は1%、その他の事業所は3%程度の改善を目指す。					